

“鍛えて、ほめて、伸ばす！子どもの可能性”

～「鍛ほめ福岡メソッド」展開中！～



福岡教育事務所・社会教育室

事業報告	令和3年度福岡教育事務所管内 生涯スポーツ担当者等研修会（会場＋オンライン開催）	
期 日	令和3年12月6日（月）	
参加者	16名（会場12名＋オンライン4名）	
日 程	時 間	内 容
	13:00～13:30	【受付】※Zoom入室
	13:30～13:35	【開会行事】
	13:35～13:50	【説明】 「本研修会の趣旨・流れについて」 スポーツ局スポーツ振興課 事務主査 福岡地区担当
	13:50～15:50	【講話・演習】 「地域スポーツを持続可能なものにしていくために」 一般社団法人福岡 SDGs 協会 代表理事 高木 正太郎 氏
	15:50～15:55	【質疑応答】
	15:55～16:00	【閉 会】
活動の 実際	【説明】 担当から、「スポーツ×SDGs（持続可能な開発目標：2030年までにより良い世界を目指す国際目標，外務省）」という本研修会のテーマ設定の理由や，流れについて説明を行なった。生涯スポーツとは，「国民の誰もが，いつでも，どこでも，いつまでもスポーツに親しむこと」である。誰もが一生生涯スポーツに親しむためにはどんなことが大切なのか。そのきっかけを得るために，ひいては答えを得るために，今回の研修会のテーマを「スポーツ×SDGs」とした。スポーツとSDGsの関連については，国際的な動向をお示しするために，国連の方針や福岡県の方針等から，「スポーツ×SDGs」の必要性についての話をした。	
	【講話】 高木氏は仕事の傍ら，社会貢献として福岡県内でSDGsの普及や啓発に取り組んでいる。講話を通して，SDGsとは何か，なぜSDGsに取り組むのか，SDGsにどのように取り組むとよいのかの具体的な話があった。主な内容は以下の通り。 ○ SDGsは，世界の普遍的な平和を追求し，持続可能な開発の三側面，すなわち「経済」，「社会」及び「環境」を調和させるものであり，誰ひとり取り残さないことを誓うものである。 ○ SDGsは，2001年からのMDGs（ミレニアム開発目標：2015年までに達成すべき8つの目標，外務省）で取り残してしまった「人」（先進国や発展途上国）や「環境」を，次世代に引き継いでいくために達成すべきものである。 ○ SDGsに必要な三要素は，イノベーション（革新），リンケージ（連携），ダイバーシティ（多様性）である。	



【担当による説明】



【高木氏による講話】

活動の 実際	【演習】 カードゲーム「2030 SDGs」を用いた演習が行われた。演習は、参加者を国の代表者と見立てて、参加者全員で 2030 年の世界を作り上げていくものである。「経済」「社会」「環境」をテーマに、各参加者がどのプロジェクトを行うかで世界の状況が刻々と変わっていき、参加者全員が行なったプロジェクトの結果、2030 年の世界があらわれていく。参加者は、この演習を通して、SDGs の実現のためには、自分（自国）の都合だけではなく、「経済」「社会」「環境」のバランスが欠かせないことを身をもって理解することができた。 【演習の一場面】 最後に高木氏は、「江戸時代の近江商人が大切にしてきた『自分よし』『相手よし』『世間よし』『三方よし』の考え方だけではなく、『作り手よし』『環境よし』『未来よし』の『六方よし』の考え方が、まさに SDGs の考え方であり、地域スポーツというフィールドにおいても、今後はこのような視点が大切である。」と話し、講話及び演習を締めくくった。 【質疑応答】 参加者から、「スポーツ×SDGs」を地域で具体的に進めていく上でのポイントについて、質問があった。高木氏は、「地域スポーツを持続可能なものにしていくためのキーワードは『連携』。SDGs と同じで、『たし算』の考え方が大切である。1 人ではなく 2 人で。4 人で。10 人でというふうに、その輪を大きくしていくことが、地域課題ひいては社会課題の解決につながる。そのためには、まずは『自分がやる』（輪の中に加わる）という『当事者意識』が欠かせない。」と話した。 この時間を通して、スポーツに関わる私たちが、それぞれの環境で自分にできることを実行していくことはもちろん、持続可能な仕組みを残していくために、スポーツ関係団体や、他部局・他市町等と連携していくことの重要性についても再認識することができた。
全体を 通して	【全体を通して】 以下は、事後アンケートでの参加者の声である。 ○ 講話・演習を通して、大会運営で試したいことも出てきたので、検討したい。 ○ 行事の企画・運営の際に SDGs という視点から行うことができると感じた。小さなことから始めていきたいと思う。 ○ まずは、自分の市の課題を洗い出し、見える化と共有を行い、具体的なアクションにしていきたいと思う。 ○ パートナリシップ（連携）は実施できているが、持続が難しいため、情報共有をしながら職員が地域の意識を少しずつ変えていくことができたらと感じた。 上記のように、各市町や各行政機関、各スポーツクラブでスポーツを持続可能なものにしていく上での、今後のヒントを得ることができたという記述が多く見られた。このことから、「スポーツ×SDGs」をテーマとした本研修会が、参加者にとって意味のあるものになったと考える。しかし、オンライン参加者が現地で行っていたカードゲームに参加できない等の課題が残った為、今後は、受講の場所に関わらず、参加者が同一の研修内容を享受できるように講師との打ち合わせを密に行い、研修会の運営面を改善していく必要がある。 福岡教育事務所社会教育室としても、SDGs の視点を生かした持続可能な地域スポーツが一層推進されるように、今後も各市町に対しての情報提供や、関係機関・団体の紹介などに引き続き取り組んでいきたい。